

「エビデンスに基づく模型傾斜義歯設計法」

私達歯科技工は一般的にサベイヤーにて義歯着脱方向を決定し、アンダーカットゲージを用いて垂直設計法により各種維持装置を設計します。模型傾斜設計法ではアンダーカットゲージは使用しません。義歯着脱方向を決定し、サベイラインを描記します。そして模型を任意の角度に傾斜させ、義歯着脱方向に対して新たにアンダーカット量をもつサベイライン(クラスプ設計ライン)を描記します。個々の様々な歯牙形態をアナライズしたクラスプ設計、また口腔内軟組織の形態的な関係が分析可能です。今回、模型傾斜義歯設計法の理論を理解していただき、サベイヤー（デントラム社サベイヤーパーサーム, MDJ<マルチデザインジグ>）を用いて樹脂クラスプ(サーモセンスデンチャー)の設計法、そしてノンメタルクラスプデンチャー(サーモセンスデンチャー)への優位性と各種維持装置の設計法をお伝えします。また、模型傾斜角度と垂直設計法(アンダーカットゲージ)のアンダーカット量の関係を検証し鉤歯補綴時のプレパレーション(waxup 法)についてもご紹介いたします。